



快速「SL 碓氷」横川駅にて
2014年11月2日撮影

【2015年3月号】

▼FMやまびこ	田中 啓介	2
△ノートの映画大好き	ノートン	7
▼里からのたより	太田 佳孝	8
△自閉症児の親も一日にしてならず	momo e	10
▼本棚から	津村 康	13

◆よこはま三歩 (大浦悟)	・・・ 6	◇疑問符だらけの現場用語集	・・・ 14
◇コラム (荒木勉)	・・・ 15	◆後援会・編集後記	・・・ 16



「色々な可能性がある・気づける職場」

日吉就労支援センター 田中 啓介

はじめまして。横浜日吉就労支援センター（以下、日吉）に勤務している田中啓介と申します。今回はこの場をお借りして、日吉の事業内容や個人的に日々感じている刺激についてお話させていただきます。

日吉は、横浜市の障害者就労支援センター事業として、平成25年4月より開所しています。就労に際して、継続的なフォローが必要な障害のある人を対象にしており、障害種別問わずご相談をお受けしています。また、企業や、各支援機関からのご相談もお受けしています。

事業内容としては、職業評価や就労の場の確保、職場定着支援、進路の相談支援等を行っています。所在地はその名の通り、最寄駅が日吉駅です。徒歩で8分程度でしょうか、キックボクシングの看板が出迎えてくれるビルに、事務所をかまえています。

私事ではありますが、日吉は今年度の7月付で着任いたしました。前職も就労支援機関で働いていましたが、利用される方々の層も違えば、支援技法も新たな発見と気づきばかりで、心の休まらない・・・もとい、刺激的な毎日を送らせて頂いています。

ちなみに、どんな刺激かと申しますと・・・

◆刺激①：ジョブコーチ支援の手法を使った、自立を目指した就労支援

利用者が実習・就職する前に、支援者が業務体験をし、職場のアセスメントを行います。その情報をもとに、ジョブマッチング（利用者と職場とのより良い組み合わせ）を考えながら、企業側と環境調整をし、自立できるよう特性に合わせた支援ツールもつくります。そして、本番、利用者が自立できるように介入・モニタリングし、ナチュラルサポートの形成を計りながら、仕事に定着していくことを目指していくという流れですが・・・“言うは易く行うは難し”です。

これまでの経験値で語れないことが多く、四苦八苦の連続でした。ですが、そんな関わりの中でも、利用者が自立していく姿を目の当たりにし、会社からポジティブな評価を聞くと、大きな安堵感と可能性を感じることができ、丁寧に関わらせてもらうことの大切さを改めて学ばせて頂きました。

以下は、最近就職した利用者に活用した支援ツールです。

【支援ツールの例】

【業務日誌】20 年 月 日 () 氏名: _____

時間	予定	内容	目標																																															
7:50	朝の準備	<ul style="list-style-type: none"> ◆ デザイナーを確認し、担当番号も業務日誌に書く。 ◆ 日誌を確認し、商品番号と品名を業務日誌に書く。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>担当番号</th> <th>商品番号</th> <th>品名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 日誌を確認し、連絡帳 / モップ にチェックする。 ◆ ノートを確認する。 ◆ レポートを確認し、○のついていない数字と売上トランプを書く。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標比</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>トランプ</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 指示者を確認する。指示者: 〇長、〇さん、〇さん、〇さん、〇さん、〇さん、〇さん (メインの指示者〇、サブの指示者△、まつける) ◆ リストを確認する。一助(助産師リストチェック)を見る ※ 全部終わらせてから、日欄に記入し、次に読みます ◆ アイムコード入力を見る。(8:00になったら、アラームがなります) ◆ 決断道具を確認し、作業に入る。 	担当番号	商品番号	品名																															目標	実績	目標比	実績	実績	実績	実績								
担当番号	商品番号	品名																																																
目標	実績	目標比	実績	実績	実績	実績																																												
8:00	作業準備																																																	
	作業																																																	
9:30	朝礼																																																	
10:00	作業																																																	
11:50	休憩準備																																																	
12:00	休憩①																																																	

時間	予定	内容	目標
12:45	作業	◆ 「インカム」をつけ、【ハンギング作業手順書】を持ち、作業エリアへ移動する	<input type="checkbox"/>
13:55	休憩準備	◆ 「戻り待ちのしめ」を見て、片付けが終わったら、日欄に記入する	<input type="checkbox"/>
14:00	休憩②	◆ 休憩の入り方を見て、事務所 (休憩室) で、休憩を取る。 ※ 14:10 に事務所 (休憩室) で日欄に記入する	<input type="checkbox"/>
14:15	作業	◆ 「インカム」をつけ、【ハンギング作業手順書】を持ち、作業エリアへ移動する	<input type="checkbox"/>
14:50	退勤準備	◆ ハンギング作業手順書の「戻り待ちのしめ」を見て、片付けが終わったら、日欄に記入する。	<input type="checkbox"/>
15:00	作業終了	◆ 「アイムコード入力」を見る。 ◆ 業務日誌 (自己評価) を書く ◆ 業務日誌 (自己評価) を書いた後、退勤の方法を見る ◆ サインをもらったら、日欄に記入する ◆ バックチェック: 指示者へ「バックチェックお願いします」報告、バックチェッカー退勤	<input type="checkbox"/>

＜チェック項目＞

チェック項目	自己評価	職場の評価
① 時間通りに、休憩・作業・片付けができましたか？	できました	できました
○を付けます。	できませんでした	できませんでした
② インカムを使い、完了報告ができましたか？	できました	できました
○を付けます。	できませんでした	できませんでした
③ 聞いたことを話すの従業員さんに聞くことができましたか？	聞きました	聞きました
作業指示を指示者に聞くことができましたか？	聞きました	聞きました
○を付けます。		

＜1日のバックン数＞

バックン

サイン

仕事の際に使用した業務日誌です。
 ※1日のスケジュールの手がかりとして使用します。抜けがないように、チェックオフできる欄を設けています。
 ※自己評価だけではなく、企業からの評価も記入いただき、振り返りの機会を作っています。

◆刺激②：幕張版ワークサンプル(以下、MWS)を使用した、職業評価
 適切なジョブマッチングを提案するためには、アセスメント技能は必要不可欠だと日々痛感しています。現在、日吉ではアセスメントの取り組みとして、MWSというワークサンプルを用いて、職業評価を行っています。
 MWSは、【テクニカルスキル(職務を遂行するために必要な力)】と【ヒューマンスキル(円滑な人間関係を築く力)】の2つの視点を軸とした職業評価です。「テクニカルスキル」「ヒューマンスキル」はビジネス用語で、仕事をする社会人には必要なスキルとされています。この2つの視点を軸に、利用者がMWSを実施する様子を行動観察しています。就職した場面を想定して、できるだけ客観的な評価となるように、各項目の評価基準の検証を行っています。また複数の職員でご本人の様子を評価し、結果をよく吟味した上でご本人や支援者に伝えるようにしています。また、この評価基準は、企業や訓練場面で活用できる共通の評価基準を持つことを目的にしています。
 MWS実施時点だけではなく、就労移行支援事業所での訓練時、また就職後の課題の整理など、ご本人や支援者にとって共通の目標になり得ます。このように評価のための評価にならないことにも、意義を感じています。
 MWSを実施する上での事前準備や実施後のまとめ、評価基準の検証等、多大な労力を費やしますが、利用者一人ひとりを理解する上で、重要な機会になっています。

また、職員間で検証する作業も多くの学びがあり、“あーでもない、こーでもない”と、一体感をもって取り組むことができるのも、楽しみの1つです。

【MWS 評価基準 一部抜粋】

ワークスキル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
A スピード	10%	～20%	～30%	～40%	～50%	～60%	～70%	～80%	～90%	～100%
B 精度	0%	～10%	～20%	～30%	～40%	～50%	～60%	～70%	～80%	90%～
C 数(計算)	数えることができる	大小を理解している	足し算・引き算ができる	掛け算ができる	割り算ができる	小数点を理解している	分数を理解している	単位を理解している	四捨五入を理解している	計算の見積もりができる
D 持続力	～20分	～40分	～60分	～75分	～90分	～120分	～140分	～160分	～175分	～180分
E 履行	手順通りやらない	手順通りできない		毎回手順を忘れる(1工程)		時々忘れる(6～7割)		ほとんど出来る(8～9割)		手順通り毎回出来る
F 符合	全く合わせられない	2桁の数字でミスがある	3桁の数字でミスがある	4～7桁の数字でミスがある	数字は合わせられる	数字と記号の組合せでミスがある	数字と英字の組合せでミスがある	3種類の組合せた文字でミスがある	4種類の組合せた文字でミスがある	全て合わせられる(数字・記号・文字)
G 巧緻性	目的が果たせず危険な動作	目的が果たせないが安全な動作	目的を果たしているが危険な動作	目的を果たしているが安全な動作	目的を果たしているが非効率的な動作	知識を使って効率的にできない	速度を意識することができない	適切な道具を活用する事ができない	適切に空間を捉えることができない	目的に合わせた適切な動作が可能
H 模倣	真似をしない	真似ができない		ほぼ真似る事ができる		物を真似ることは出来るが他者と同様の行動ができない		他者と同様の行動を真似る事ができる		他者と同様の行動や物を真似る事ができる
I 注意力										適切に注意を移動する事
J 道具の使い方	道具や材料を探し出す	(知っている)誤ねずに道具や材料を探す	必要な道具や材料を作業場に集める	置き間違えた・こぼした道具や材料を集める・置き直す	作業場が広がりが過ぎない	作業場が整理されている	材料や道具を適切な場所に片付ける・もとの状態に戻す	必要な時にはフタをしめたり等できる	障害物にあたらずに体を動かすことができる	障害物にあたらないように、物を掴み操作する

テクニカルスキルの評価基準です。
 この基準をベースに、ご本人の力を知っていきます。
 この基準をつくっていく作業も、やりがいがあります。



プラグ・タップ組立の一場面です。
 テクニカルスキルの様々な項目を知ることができる作業です。

◆刺激③：“横浜やまびこの里”という看板

転職後、発達障害の研修に行った際の出来事です。名刺交換を行うと、ほとんどの方から『横浜やまびこの里さんですか！？今度見学に行きたいと思っています。』や『見学に行きました！！すごいですねー。』等々、全国各地の方から、同じ内容のお声を頂きます。

「入職したばかりなんで…。」と言いながら、「これがやまびこブランドか…。」と、ちょっと驚いています。ただし、私も入職前のイメージが、“自閉症・発達障害に特化した特別な法人”というイメージでしたので、納得ではあるのですが…。

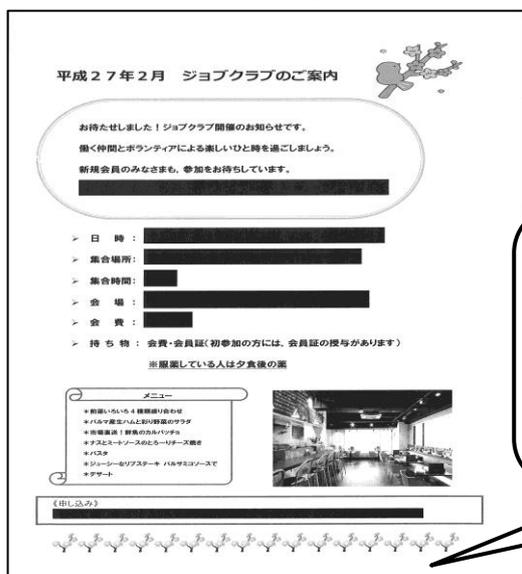
個人的には、大事な経験だな～と感じています。一方で、周囲（社会）からどう見られているのかを適度に知ることは、必要だと思っています。自分の立ち位置が明確になり、周囲からのニーズも良く分かり、課題を知ることができます。そして、“やまびこブランド”の話を聞けば聞くほど、“故きを温ねて新しきを知る”が重要であり、まずはそこからだな～と、実感している毎日です。

日々の取り組みの中から学ぶべきはもちろんですが、法人内部でそういった研修の機会があれば、参加してみたいです。

◆刺激④：組織として動くこと

現在、日吉では幾つかの会議があり、事業運営をしています。全ての案件を会議で対処していくことは難しいですが、できるだけ多くの案件を職員間で共有し、組織として動くことを重要に考えています。

組織が機能することで、支援に厚みが生まれ、可能性が沢山増えるので、非常に大事なことだと感じています。また、組織人としての感覚を養う意味でも重要だと感じています。社会のニーズに応える、使命・役割を果たすためには、挑み続ける組織としての力が必要だと思えます。そして、組織を支える個人に何が求められており、役割をどう果たしていくのか等、考える機会が日常的にあることは、とても有難いです。個人的には、不慣れで不十分なことばかりなので、学びの毎日です。



企業就労されている方を対象に、“就労意欲の向上と社会交流活動のサポート”を目的とした【ジョブクラブ】を企画しました。
就労支援課（ワークアシスト・日吉）の共同で開催します。

今回ご紹介できたのは、ほんの一部です。

他にも多くの刺激がありますが、日々、私が最も感じていることは、自閉症・発達障害と診断された方々の生き難さです。一方で、魅力や強みも沢山あることも教えてもらっています。そして、それを活かすことで、仕事の中で、戦力として活躍できる可能性が沢山あることも、気づかせてもらいました。

まだまだ始まったばかりですが、そういう環境の一員となれるよう、精進していきたいと思っています。



よこはま三歩

はじめまして。私は2014年4月からグループホームハウスJOYに勤めている大浦悟と申します。

今回、私が紹介するお店は、氷取沢町にあるラーメン屋「がんこ亭」です。ハウスJOYから歩いて3分と近くにあることから、このお店を知りました。そのがんこ亭をおすすめするポイントは、美味しくて通いやすいところです。

がんこ亭はグルメ検索サイト「たべログ」でなかなかの高評価をされており、口コミでは「週に3回は通える醤油豚骨ラーメンのお店」とか「あきずに通える美味しいラーメン」「店員さんの人柄も良く安心して行けるお店」という内容が書いてありました。

それを見て私は興味が湧いたので、食べに行きました。スープはあっさりしていて豚骨臭さはないので、醤油ラーメンに近い、美味しくて、食べやすいラーメンでした。さらに、無料トッピングの種類が6種類と豊富です。その中でもきざみねぎが新鮮で、シャキシャキとしていて、ラーメンの美味しさを一層引き立たせてくれます。

また、がんこ亭は「おもてなし」という点でも通いやすいお店です。ラーメン屋によくある床がヌルヌルしているということはなく、店内は清潔に保たれています。お水はセルフサービスが主流の中、お店の方が運んでくれます。亭主は少し強面ですが、丁寧に接客してくれます。店員のお姉さんも綺麗な方でかわいい笑顔に癒されると思います。またこのお店に来ようと思わせてくれます。

みなさんも美味しくて、通いやすいお店「がんこ亭」に行ってみてはいかがでしょうか。

ハウスJOY 大浦 悟

ノートの《映画、大好き!》 最終回



「ゼロ・グラビティ」(2013年)

立春が過ぎ、いよいよ春が近づいてきました。寒い日もありますが、日が長くなってきており、気分的にも春めいた明るさを持てるようになった気がします。ただ、年度末は何かと忙しく、皆さんもバタバタされていることでしょう。私も新年度に向けて色々と仕事上の悩み事が多く、現実逃避したい衝動に駆られる時があります。そんな時はどうするか?酒を飲むのですね。美味しいビール、日本酒、焼酎、ウィスキーなどなど。最近はクラフト系のお酒にはまっています。ビールやウィスキーは日本各地で地物が沢山出ています。特にクラフトビールは美味しいんです。ホップの香りが抜群で、鼻を抜けていく感覚がサイコーです。やってられるか!と悪態をつきつつ、クラフトビールを飲むとすべてを忘れてしまうことができるノートンです。

さて、映画のお話ですね。2月も終わりにになると、アカデミー賞の行方が気になります。今年は作品賞に8作品がノミネートされています。昨年の作品賞は「それでも夜は明ける」という黒人差別がひどかったアメリカ南部に誘拐された黒人一家のお話でした。実話をベースにしており、本当にこんなことがあったのかと考えさせられる映画でした。今回紹介する映画は、昨年の監督賞に選ばれた「ゼロ・グラビティ」という作品です。主な登場人物は2人だけで、SF映画なのですがそれだけにとどまらない作品でした。

では簡単にストーリーを・・・

エンジニアのライアン・ストーン博士(サンドラ・ブロック)は宇宙空間でデータ通信システムの故障の原因を探っていた。彼女をサポートするのはベテラン飛行士のマッ

ト・コワルスキー(ジョージ・クルーニー)。作業が難航する中、緊急通信が入る。「至急避難せよ。壊れた人工衛星の破片が君たちのいる方向に猛烈なスピードで迫っている」。しかし、無情にも破片はシャトルに当たり、ストーン博士は一瞬にして無重力の宇宙空間に投げ出されてしまう。地球との通信も途絶え、聞こえるのは激しい鼓動と自分の息遣いのみ。パニックになるストーンだが、コワルスキーからの通信が入る。「ライトをつけろ」。その後、彼はストーンを見つけ出し、背負っていた小型ロケットエンジンで近づいて2人は互いの体をロープでつなぐ。シャトルは大破。地球に戻るためには、近い位置にある国際宇宙ステーションまで行き、そこにある宇宙船を使用するしかない。酸素ボンベの容量、小型ロケットエンジンの燃料ともに少ない状況の中、2人は互いを励まし合い、これまでの人生について語り合う。絶望的な状況の中、悲しい過去を引きずりつつ生きて地球に帰る意味はあるのか?くじけそうな気持ちを抱えつつ、2人は宇宙ステーションに向かう。果たして2人の運命は・・・

想像を絶する危機の中で生きるためにあらゆる手段を考えるのですが、絶望的な状況であればあるほど人間はネガティブな思考になってしまいます。諦めた方が楽になれる。これまで苦しんできた過去からも逃れることができる。でも人間は簡単には死ねないのですね。だからもがき続ける。その先に何かあるかわからないけれど、とりあえず可能性を信じてもがく。観終わった後、その先の希望を実感できる映画です。とても勇気づけられた作品でした。ぜひ、ご鑑賞ください。

田舎がのたより

ともに未来を語ろう…

輝きつづける法人であるために

太田佳孝

■30年後は単独世帯が4割になる、さて暮らしはどうなるのか…

昨年(2014年)4月12日付の朝日新聞に「一人暮らし高齢者2035年に762万人」という大きな見出しの記事が掲載されました。国立社会保障・人口問題研究所が国勢調査などをもとに世帯数を推計したものでした。一人暮らし(単独世帯)の高齢者は2010年には全国で約498万人いましたが、2035年には53%増の約762万人になる見通しです。増加率を都道府県別にみると沖縄(92%増)、埼玉(83%増)、神奈川(81%増)の順で高い、と記事にはありました。ちなみに推計人数は東京、大阪に次いで神奈川県は57万4千人でした。

これだけでも十分に衝撃的ですが、さらにすべての世帯の家族構成別の割合では全都道府県で単独世帯が最多を占めるということでした。これからの社会や暮らしのあり方はいったいどのようになるのでしょうか。ちょっと想像が付きません。

日本の世帯数の将来推計(国立社会保障・人口問題研究所)2013・1/18 発表

*数字は%

	単独	夫婦のみ	夫婦と子	ひとり親と子	その他
1980年	19.8	12.5	42.1	5.7	19.9
2010年	32.4	19.8	27.9	8.7	11.1
2035年 (推計)	37.2	21.2	23.3	11.4	6.9

■家族の役割を社会が担う構造変化に対応できるのか…

各種の調査資料、インターネット、新聞雑誌などから筆者が個人的な関心でまとめたのが次表です。世帯の人員数は1955年(昭和30年)と比べ75年後の2030年(平成42年)には約半数の2.27人になります。単独世帯は10%から約3倍強の35%になる見通しです。核家族は約45%から約50%へ。三世代家族は約43%から一桁台に激減します。

こうした家族の変容は私たちの生活のあり方に大きな変化をもたらしていますが、とりわけ家族による養育機能と介護機能の脆弱化は子育て問題と高齢者の介護問題と

して顕在化しています。家族が担っていた役割を社会システムとして代替しなければ私たちの暮らしが成り立たなくなってしまうのです。いまや社会福祉の最大課題となっています。そして、障害者の福祉もこのような家族変容がもたらした問題の埒外にあるはずはありません。

■福祉ニーズの増大や多様化に応じているだけでよいのか…

横浜やまびこの里は、自閉症者の入所施設、通所事業所、グループホームなど施設系サービスを中核にしながらも相談、就労、移動という機能別のサービスを展開し、自閉症スペクトラム障害という幅広い対象者にサービスを提供してきました。対象者の年齢も学齢児まで拡大しました。また、地域ケアプラザという横浜市固有の制度ではありますが、高齢者デイサービス、居宅介護支援、地域包括支援センター、地域交流、さらに近年は子育てや障害児者領域へ手を広げ、文字通り地域福祉の拠点になるように努めています。

こうした動きを総括すると、展開速度はやや緩やかですが福祉ニーズの増大、福祉ニーズの多様化に着実に応えてきたように思います。しかし、問題はこの先です。

太田の調査(各種資料から)

世帯の人員	1955年(昭和30年)	4.68人
	1988年(平成元年)	3.10人
	2005年(平成17年)	2.55人
	2030年(平成42年)	2.27人
単独世帯	1955年(昭和30年)	10.8%
	1988年(平成元年)	20.2%
	2005年(平成17年)	29.5%
	2030年(平成42年)	35%以上
核家族	1955年(昭和30年)	45.4%
	1988年(平成元年)	60.3%
	2005年(平成17年)	57.9%(?)
	2030年(平成42年)	51.1%(?)
三世代	1955年(昭和30年)	43.9%
	1988年(平成元年)	60.3%
	2005年(平成17年)	8.64%(?)
	2030年(平成42年)	(?)

■志(こころざし)ある者よ、横浜やまびこの里に来たれ！

残念ですが、これから20年後、30年後の国や自治体、地域社会や家族を想定した福祉サービスを展望する作業に横浜やまびこの里はまだ着手していません。急激な社会変化のなかで真に求められるサービスを模索し提供しようとする進取の精神こそが横浜やまびこの里の真骨頂です。そうした組織であり続けるための一員でありたいと切に思うとともに、志ある若者や人材の参画をなによりも願っています。



自閉症児の親も

一日にしてならず。



ペンネームは
momoe

★momoeさん紹介★

知的障害のある人の地域生活支援をする特定非営利活動法人の理事です。首都圏通勤圏にある某市に夫と夫の母親(要介護1)、某病院機構事務方勤務の長男と暮らしています。生活介護事業所(通所:ベーカリー)利用・24歳で知的障害と自閉症がある(療育手帳で最重度、障害支援区分6)の次男は2013年10月からグループホーム(週末帰宅)で暮らしています。

最終回 伝え続ける の巻

10月14日 市内の日中活動などを利用している知的障害者の運動会が終わる。代休を挟んだこの日から、ベーカリーで次男専用の作業スペースと作業内容をスライドケースに上から下に入れた物が用意される。すると「打って変わったように」次男が作業に専念しだしたとのこと。よかった。約ひと月の作業できない、商品に手を出す状態からようやく脱出。「困っている状態、自分で納得できない状態」を「商品に手を出す」ということで表していたことは明確になる。そしてこれは「学習」してしまったのである。やれやれ。

10月30日 長女さんは家から近い小学校の特別支援教室を利用している方が、長女と相性が悪い次女さんを同じ学校に就学させようかどうか悩んでいた。そんななか就学相談では「特別支援学校を利用できる」と言われたとのこと、そうします、と報告してくれる。私たちのときは、「養護学校相当」と言われると地域の学校に行くのは結構大変だったものだが、今は逆なんですものねえ(遠い目)。

11月23日 二人で3kmジョギングして帰る。昼食後、広告紙切りをしていた次男をふと見るとはさみと広告を持ったまま寝ている。なんだか小さい時の「電池切れ就寝」を見ているようで懐かしくなる。

11月30日 NHKの発達障害者支援フォーラムで堀内祐子さんのお子さん二人が登壇。イケメンお二人の直の発言を聞け、とても感慨深いフォーラムだった。言葉のある方が来し方を振り返って「あの時の気持ち」を話してくれると、次男の心の中を代弁してくれるようでとても参考になる。

12月 8日 ベーカリーの製品「チョココロネ」をおやつに食べる。食べ終わった私が立ち上がると、次男が、私の後ろを指さして何やら「回れ」というように指を回転させる。「何々？」と言いながら後ろを向くと次男が私のズボンについたチョコを指でこそげとってぺろりと食べる。不器用な私がたぶん床におとしたチョコクリームをズボンにつけていたらしく（笑）。

12月14日 長瀬修さんのお話を聞く。知的障害のある方も参加される会で、「国連の障害者権利条約の批准」という私たちも一度では理解しにくいことを「国連」「障害者権利」「条約」「批准」に分けて説明される。情報保障を、合理的配慮を、と要求してはいても身近な人以外にも通用するスキルのない私はとてもとても参考になった。同じようにはなかなかできないけれど。うう。

1月 8日 一週間勘違いしていてヘルパーとの活動に必要な手帳やお金を持たせるのを忘れる。自分で自分にあきれる。どうしてこう詰めが甘いんだろう…

1月19日 義母が利用しているデイサービスの分室が3月いっぱいまで閉められる、ということが分かる。義母はパニック！状態で電話を掛けまくる。わかったことは、「採算が合わないから閉める」「今の利用者は次をきちんとつなげる場所を探す」。でも、利用者同士のコミュニティは解散させられるわけで、義母の精神状態に影響があることは間違いない。その後2月中旬にかけてケアマネとともに3か所のデイを見学に行き、ようやく「ここなら」と次が見つかった時、閉められるところを丸ごと引き受ける事業所が見つかったとの連絡が！げげげ。利用者の何人かは新しいところに「今なら入れるけれど3月になるとわからない」と言われすでに移動しており、「いまさら感」満載。こういうことは高齢者の世界ではよくあることなんですかね？

1月25日 フード付きコートが古びたので（なにしろ高等部のときに買った10年ものだ）新しいものを購入。同じデザインでフード付きとフードなしがあり、本人に両方着せたらフードなしの方が「かっこいい」のにどうしてもフード付きだ、と押し切られる。次男は調子の悪い時、耳ふさぎのかわりに冬はフードをずっとかぶっているし、上着を脱ぐ室内や夏などはTシャツや襟付きシャツを頭まで引き上げ（故に半ケツ）ジャミラのようにになっている。そうやって「ジャミられた」服は襟がダルダルになる。お気に入りほど…

加えて、フードのわきに紐が通っているとその紐の先を「ねぶる」。今回もどうしても紐が口に行くので、やむを得ず紐を抜く。



S

環境が辛い時、服を頭からかぶったり、口に指を入れないまでも爪かじりや甘皮噛みをして出血させるということはとめられない。顔の吹き出物のかさぶたをはがし続けるより「まし」なので、これは一生ものだろうな。

2月 1日 障害者団体の賀詞交歓会。次男も参加。市長が「お会いするのは初めてですね」、と次男に名刺をくれる。観光のためのグルメシリーズの写真付き。

2月16日 ベーカリー職員が冒頭の「次男の場所」を次男が来る前に移動したとのこと。朝、次男はそれを見て自傷である手噛みをしながら職員に向かっていき、商品のコロッケを食べたと連絡帳で報告。原因は明らか。次の日も出勤前にグループホームの階段で30分かたまり、ベーカリーではバターを食べたとのこと。一週間不調は続く。次男の一番得意な予告なしの変更。その後の「問題行動」だけをいくら止めようとしても無駄デス。

・・・ということはずっと伝え続けるのが私の役目。そしてそして近い将来次を託す人に「わかりやすく」残すことに取り組むことも。

☆momoeさんからメッセージをいただきました☆

13年前、中山清司さんに依頼を受けて始めた連載の最終回です。

私にとっても中学校入学時からの次男の貴重な記録になりました。

私の住む市でも「サポートブック」作成の動きがありますが、母子手帳と福祉サービスおよび障害者基礎年金の受給者証と療育手帳にマンやまの原稿を入れておけば済んじゃうかも！とほくそ笑んでおります。

匿名にさせていただきましたが、記述したことは実際にあったことです。他意はありませんが、不快に思われた方がいましたら、お詫び申し上げます。

でも、まだまだ障害のある子どもの家族の生活は「きれいごと」ではないと思っています。

皆様のご健康とご多幸をお祈りしてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。





「甲賀忍法帖」角川文庫

山田 風太郎 著

世の男性の七割くらいが、一度は忍者になる事を夢見たのではないかと思います（もちろん幼少期に）。

僕もその七割の内の一りで、手裏剣や鎖鎌を自作してみたり、誰に対するものでもなく隠密行動をとってみたりしていました。当時の僕の教科書は学研の歴史漫画「真田幸村」で、真田十勇士が登場するシーンを何度も読み返していた記憶があります。その後、白土三平の「ワタリ」「サスケ」に出会い、忍者の世界の厳しさや儚さを知り、忍者になる事を断念したのでした。

「甲賀忍法帖」は山田風太郎の「忍法帖シリーズ」の一作目にあたります。忍者衆の総元締めである服部半蔵の仲立ちで「不戦の約定」を取り交わしている甲賀忍者衆と伊賀忍者衆ですが、長きにわたって争い合い憎しみ合ってきた暗い感情は消す事ができず、両陣営には緊張感が漂っています。しかし、甲賀衆頭目の嫡孫である弦之助と伊賀衆頭目の嫡孫である朧が恋仲になり、祝言も間近かと噂され、両陣営の感情的な闘争も終わるかと思われました。そんな中、弦之助と朧の思いとは裏腹に「不戦の約定」が解かれ、甲賀忍者衆と伊賀忍者衆の闘いが始まります。

十人の甲賀忍者と十人の伊賀忍者が忍法を駆使して闘いを繰り広げていきます

が、忍法というよりも魔術といった方が適当かもしれません。体を周囲の環境と同化させ敵の背後から奇襲する忍者、全身におおわれた伸縮自在な毛を硬質化させて敵を貫く忍者、金色の眼光で敵の術を跳ね返す忍者、敵の術を無効化する忍者、極めつけは殺されても蘇る忍者……。十人对十人がトーナメント方式で戦うので戦闘の描写が多く出てきますが、だまし討ちや駆け引き、対戦の組み合わせが絶妙で読者を飽きさせません。

この小説は五十年以上前に発表されましたが、古臭さをまったく感じさせません。特殊な能力を持つ主人公たちがチームに分かれて死闘を繰り広げるという設定は、現代の少年誌に掲載されている漫画などに大きく影響を与えたのではないかと思います。この小説自体も漫画化され、アニメ化され、実写映画化されました。実写映画は登場人物や設定が大きく変わっているため酷評されていますが、原作に忠実に描かれている漫画とアニメは高く評価されているようです。

戦闘描写が生々しいので、これを読んで忍者を夢見る子どもたちはいないと思いますが、物語にスピード感、緊張感、ある種の爽快感があり、何度も読み返したくなる忍者小説です。

〈津村 康〉

疑問符だらけの現場用語集

～その60～ 部分最適化支援の弊害

部分最適（あるいは個別最適）をインターネットで検索すると、「ある狭い範囲（見える範囲、考えられる範囲、できる範囲）で行動をし最適にすること」（『はてなキーワード』より）といった説明がされています。会社で言えば、例えば、営業部門はお客様の要望を聞いて商品なるべく安く売る、しかし製作部門はコストがかかってももっと機能の高い商品を作りたい、財政部門は経営の赤字体質をなくしたいと、それぞれの部門は合理的な選択をしても、会社全体は時代にマッチせず倒産の危機に瀕するという事態になることがあります。これを＜部分最適の弊害＞と呼ぶわけです。諺で言えば、「木を見て森を見ず」、「井の中の蛙大海を知らず」ということでしょう。

同じことが自閉症支援の現場でもよく起こっているのではないかと考えています。たとえば、自閉症のコミュニケーションや社会性を支援するツールとして、近年、PECS やソーシャルストーリーズといったアイデアが海外から翻訳・紹介されてきました。それ以外にも、自閉症支援にはさまざまなやり方、考え方が普及し、自分のお気に入りの〇〇療法をすることが自閉症支援だと思っている支援者も中にはいることでしょう。

それぞれの支援ツールは（中には科学的・実証的な根拠の乏しいトンデモ療法が混ざっていることもあります）、それなりに自閉症支援に効果を発揮すると思います。しかしながら、それだけですぐに自閉症の人とその家族の豊かな暮らしが実現されるものではないでしょう。ある自閉症の子どもが PECS を使って自分の言いたいことが今までより少し伝えられるようになって、それでその子の見通しの持てなさからくる不安や感覚過敏や学習上の困難さが解消されるわけではありません。しかし、部分しか見ない支援者であれば、PECS のフェーズがあがることばかりに気を取られてしまうのではないのでしょうか。

最近の相談支援事業や支援学校のコーディネーターの取り組みを見ると、関係機関を集めてケース会議をおこない、それぞれの事業所のサービスやプログラムを調整することにエネルギーを費やしているように見受けられます。よくあるケース会議の例ですが、本人の願い、家族の気持ち、各事業所での最近の様子を一通り聞いたあと、現状の週間予定の帯を見ながら、この時間にどこかの事業所がサービスを提供してくれませんか？ という話になります。つまり、サービス提供時間を増やしたり調整したりしてうまく時間配分すれば、それで支援が充実しているような錯覚に陥っているのです。

各種のプログラムやサービスは最適であっても、また、それらを寄せ集め、組み合わせたとしても、十分ではありません。その人の成長や生活、人生を支えるには、質的な転換がいるように思います。つまり、部分最適から全体最適へと発想も方法も変えなければなりません。TEACCH プログラムを創設したエリック・ショプラー先生は、それをジェネラリストモデルと呼ばれていました。その意味は、その人と家族のニーズに応えることが最優先である（だからみんなで協力・連携するんだ）と、そう私は習いました。

＜中山清司＞

～コラム～

はじめまして。今年度から横浜日吉就労支援センターで勤務しております
荒木勉です。出身は北海道函館市で大学進学を機に上京してきて、現在は横
浜市で一人暮らしをしています。東横線の便利さに日々感動し、横浜市の人
口や市民の「ヨコハマ愛」に圧倒されながら生活しております。

さて、新卒で昨年4月から入り、まもなく1年が経とうとしています。
振り返ると、あっという間でドキドキすることが多い1年でした。緊張のあ
まり手がガタガタ震えていた電話対応や名刺交換。専門的な言葉が飛び交う
会議や利用者面談。会社訪問と会社での利用者支援。この1年は全てが初め
てづくしでした。

特に利用者支援は、利用者にどのようなサポートをすれば職場で働きやす
くなるのか分からなく、失敗の連続でした。そして専門的な知識の不足はも
ちろんですが、社会人として多数の課題があることを痛感しました。ただこ
のようなダメな部分に気づけたことで、自分のやりたいこと・課題点、今や
るべきことを具体的に考えるきっかけになりました。だから「〇〇さん、本
当にごめんなさい。でも自分を成長させるために必要な試練なんだ。きっと
これに気づけたことは良かったんだ。」と自分を言い聞かせ業務に励んでい
る今日この頃です。これからはダメな部分が少しでも減るように、1年目と
は違う『緊張感』を持って仕事に臨んでいけたらと思います。

最後に1年目の若僧のコラムをご一読いただき、誠にありがとうございました。
甘々な所がまだまだたくさんありますが、今後もよろしくお願い致します。

横浜日吉就労支援センター 荒木 勉

お知らせ

来年度から、マンスリーやまたはリニューアルします！

それに伴い、長年執筆いただいた momoe さん、ノートンさんの原稿が読めるのは今
月号が最後になります。momoe さんには、支援に携わるにあたり、学びや再発見に繋
がるような原稿を、ノートンさんには、わくわくするような映画のあらすじとともに
おすすすめ情報もいただき、マンスリーやまたを充実した内容にしてくださいました。

名残惜しいですが、今まで素敵な原稿をありがとうございました！



△▼横浜やまびこの里後援会▼△

横浜市内で自閉症という障害を持つ人たちが地域で生活するためのサービスを、一つずつ作り出していく活動をしている『社会福祉法人横浜やまびこの里』の活動のバックアップを目的としています。

入会された方には「マンスリーやまた」「後援会報」をお届けします(郵送)

会員種別	個人会員	法人会員
会費	1口 3,000円/年	1口 10,000円/年
入会時期 (定時入会)	7月または1月	
会費納入方法	(ア)7月入会者 7月～12月入会者は当該年度の会費を納入し、次回からの会費は翌年の7月に納入し、以後毎年7月となります。 (イ)1月入会者 1月～6月入会者は当該年度の会費を納入し、次回からの会費は翌年の1月に納入し、以後毎年1月となります。	
振込口座 (郵便振替)	横浜やまびこの里後援会 <口座番号> 00240-3-76163	

★後援会のお申し込み・お問い合わせ★

横浜やまびこの里 後援会事務局

TEL045(591)2728

～編集後記～

年度末を迎え、次年度からの制度変更や報酬単価改訂にあわせて、事業計画・予算策定に追われる日々です。利用者の方により役立つ制度変更やサービス提供がしやすい仕組みになって行くといいのですが、事務作業ばかりが増えている気がします・・・。

さて、「マンスリーやまた」はこれまで隔月発行してまいりましたが、次号より3・6・9・12月発行の季刊とさせていただきます。読みやすさとアピール性を重視しカラー印刷にし、一部紙面内容を変更する予定です。連載が終了するものもありますが、今後ともご愛読よろしく申し上げます。(山本俊)

表紙写真 ペンネーム：たこちゃん

編集 社会福祉法人横浜やまびこの里 (編集責任者 小林信篤)

横浜市都筑区東山田町 270 番地

TEL.045-591-2728/FAX.045-591-2768

法人ホームページ <http://www.yamabikonosato.jp/>

印刷 ワークステーション 横浜市神奈川区西神奈川 1-14-6-1F TEL.045-316-5710

購読料1部 15円(税込み)